

標 題 : Mediterranean diet, Alzheimer Disease, and Vascular Mediation
地中海食事、アルツハイマー病、と血管の介在

著 者 : N. Scarmeas, et al. (米国 コロンビア大学)

掲 載 誌 : Arch. Neurol. 63: 1709-1717 (2006)

要 旨 :

目 的 : 地中海食事とアルツハイマー病との関連を各種アルツハイマー病集団で観察し、血管経路による介在の可能性を研究すること。

計画、設定、患者、主な結果判定 : ニューヨーク住民内で入れ子にした症例 - 対照研究。コホート、年齢、性別、民族性、教育、アポリポタンパク E 遺伝子型、カロリー摂取、喫煙、医療共存症指数、および BMI (体重(kg) / (身長(m)²)で調整したロジスティック回帰モデルで、地中海食事の順守(0 から 9 点、高得点が高い順守を示す)がアルツハイマー状況の主な予測因子であった。
血管の変数(喫煙、糖尿病、高血圧、心臓病、脂質値)を同時に (介在の証拠を構成する) モデルに導入すると、地中海食事とアルツハイマー病との間の関連が弱まるかを、我々は研究した。

結 果 : 地中海食事の高い順守はアルツハイマー病の低いリスクと関連した(オッズ比 0.76 ; 95%信頼区間 0.67-0.87 : P<0.001)。
地中海食事の最低群(3 区分)と比較して、地中海食事の中間群はアルツハイマー病のオッズ比 0.47 で(95%信頼区間 0.29-0.76)、最高群では 0.32(95%信頼区間 0.17-0.59)であった(動向の P<0.001)。
血管系変数をモデルに導入しても、関連の程度は変化しなかった。

結 論 : 地中海食事の高い順守はアルツハイマー病リスクを低下させると、我々はもう一度指摘する。この関連は血管系の共存症によって介在されないとみえる。
これは、関連する別の生物学的メカニズム(酸化または炎症) の結果または血管系変数の測定誤差の結果であろう。
